

## 第5回 グリーフケア シンポジウム

死別前後のグリーフケアを考える  
遺族ケアのための医療と葬儀を考える

2019年 **7月27日** (土)  
10:30~16:30 (受付 開場10:00)

### シンポジウム スケジュール

10:00 開場・受付

10:35~12:00 (85分)

#### 第1部 基調講演

### 悲嘆のケア



**柏木 哲夫 氏**  
淀川キリスト教病院  
名誉ホスピス長  
大阪大学名誉教授  
ホスピス財団理事長

人生には様々な悲しみがありますが、配偶者や親、子供を失う悲しみは強い悲しみの代表でありましょう。ホスピスという場で約2500名の患者さんを看取りましたが、家族の悲しみはとて深いことがわかります。ホスピスで経験する家族の悲しみは「予期悲嘆」(Anticipatory Grief)と「死別後の悲嘆」(Conventional Grief)に別けられます。前者は患者さんの死を予期して家族が悲しむことで、不治の疾患であることがわかった時点で始まり、患者さんの死で終わります。後者は文字通り患者さんの死後家族が経験する悲しみです。この両者ともケアが必要です。患者さんの死後家族が立ち直って普通の生活ができるようになるまでにはかなりの時間がかかります。我々の調査では死後一年半経過しても約20%の家族が立ち直れずにいると言う結果でした。この間、同じ体験をした人達とグループで悲しみを分かち合うことができれば回復への助けになります。患者さんの死後うつ状態になる家族がありますが、それが病的に長引くようであれば、専門家の介入が必要になります。

※ 基調講演詳細は表面をご覧ください。

13:10~14:50 (各20分×5名)

#### 第2部 パネリストによる講演

### 医療から葬儀の流れにおける思いやり



**飯田 英晴 氏**  
藍野大学  
短期大学部  
副学長

遺族の悲嘆に及ぼす葬儀社の役割は非常に大きいものがあります。亡くなった直後に、あまり経験のない葬儀という儀式が行われ、葬儀社の方々の立ち居振る舞い、言葉かけ、葬儀の流れ全てが故人に対する思い遣り、気遣いと非常に特殊な眼で見えています。また、病院で亡くなった時には、その場に居合わせた医者をはじめとする医療スタッフの故人に対する接し方に最大の関心を寄せます。あまり機械的で、マニュアル化されたものだと故人に対する思いが感じにくいように感じ傷つくことがあります。医療から葬儀の流れの中の医療人、葬儀社のケアに繋がる思いやりについて総論的に話す予定です。

### 地域のボランティア活動や精神科外来におけるグリーフケア



**河瀬 雅紀 氏**  
京都ノートルダム女子大学  
心理学研究科長・教授

がん患者と家族を支援するボランティア活動では、遺族が故人を偲んでイベントに参加したり、ボランティア活動そのものの運営に携わったりします。また、精神科外来では、通院中の方と、大切な人との死別前から死別後、長期にわたって悲嘆をともにする機会もしばしばあります。そこで、視点を「看取りが行われる臨床現場」から、「地域のボランティア活動や精神科外来」に移して、家族や遺族がどのような変遷をたどるのかをみながら、関わりや支援の課題についても検討したいと思います。

### 看護職が家族に行うグリーフケア



**小野 若菜子 氏**  
聖路加国際大学大学院  
看護学研究科  
在宅看護学 准教授

看護職は、療養の相談を受け、治療のサポートをする中で、療養生活を送る人々と関わることもあれば、看取りの場面に立ち会うこともあります。看護職によるグリーフケアは、こうした日々の関わりの中で、患者の生前から死別後まで継続的に家族に関わることができるという特徴があります。グリーフケアの中での看護職の役割についての情報提供を行い、これからの死別を支え合う地域コミュニティについても皆様と考えていければと思います。

### 他職種連携のグリーフケアの重要性とは



**宿原 寿美子 氏**  
株式会社キュア・エッセンス代表  
死化粧師・復元師

葬儀社は、死別直後に遺族と直接関わるが、既にご遺族は其々にグリーフを抱えている事も多く、その内容は千差万別です。昨今は終活という言葉が聞かれるようになり死別前に事前相談などでご家族や本人の話聞く機会も以前より増えています。そこでは葬儀の内容だけでなく個々がグリーフを吐露する事も少なくありません。また、臨床の現場で生から関わりを持ち、最後の看取りまで本人や家族のグリーフに触れてこられたその内容を葬儀社が知る機会も少ないです。今回、死化粧師として実際の事例を元に専門職同士の情報共有や連携が更に遺族のグリーフケアになることを共有したいと思います。

### 家族が望むグリーフケア



**坂下 裕子 氏**  
こども遺族の会  
「小さないのち」代表

「広義の遺族ケアとは、患者の死の前後を問わず、結果として遺族の適応過程にとって何らかの助けになる行いのこと」(坂口、2010)と言われる通り、私が出会うご遺族の多くは、闘病中の患者・家族にしてもらった体験談を中心に話されますが、本日はテーマに沿って、時期を死別前後に絞って、してもらって嬉しかったこと、逆にそうではなかったこと。心に響いた言葉、そうではなかった言葉などを中心にお話ししたいと思います。

14:50~15:10 小休憩

15:10~16:20

#### パネルディスカッション

### 死別前後のグリーフケアを考える

司会：**飯田英晴 氏**  
藍野大学 短期大学部 副学長

パネリスト：**河瀬雅紀 氏、小野若菜子 氏、宿原寿美子 氏、坂下裕子 氏**

精神科外来・在宅看護・葬儀・遺族の立場からのお話しをいただきます。

(16:00~16:20 質疑応答)

16:20~16:30 閉会の挨拶

## お申し込み・お問い合わせ

TEL **075-741-7114**

FAX 075-741-7115 京都グリーフケア協会事務局

検索 **京都グリーフケア協会**

<http://www.kyoto-griefcare.or.jp>

トップページ「第5回グリーフケアシンポジウムお申込み」よりお申込みください。

開催会場 知恩院 和順会館 京都市東山区林下町 400-2



- ・ JR 京都駅下車市バス 206系統「知恩院前」下車 徒歩 5分
- ・ 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車 徒歩 8分
- ・ 阪急河原町駅下車 徒歩 15分
- ・ 阪急河原町駅下車市バス 12・46・201・203系統「知恩院前」下車 徒歩 5分
- ・ 市バス 知恩院前 徒歩 5分
- ・ 京阪電車三条駅下車市バス 12系統「知恩院前」下車 徒歩 5分
- ・ 京阪電車祇園四条駅下車 徒歩 10分